3/5（sun）@ 創造館

第一回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

地域

↑ 伊那市創造館 3 階講堂にて行われた

●参加者
上伊那地域にお住まいのみなさん 46 名
＋ 設計 JV チーム　　合計 53 名

3/5（日）【第一回 伊那新校ワークショップ】
10:00-12:00　伊那市創造館 3F 講堂

地域のみなさんと「みんなで伊那新校の校舎を考えよう」と銘打った集まりの第一回目。NSD プロジェクトのビジョンや、新校の「基本計画策定～設計～工事～開校」までのスケジュールを共有すると共に、「地域連携コンソーシアム」構想をも視野に入れて、地域全体で子どもたちの学び・空間を考えていくための場として開催した。

46 名を超える地域の方にご参加いただいた。スライドを見つめる視線には熱意が溢れていた。

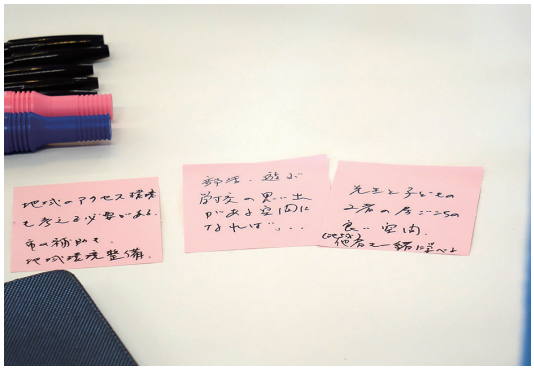
↑ 設計 JV の須永からは、プロポーザルで提案した案をスライドで示し、設計におけるコンセプトや、全体の進め方についての説明がありました。

↑ プロジェクトがどのように進められていくのか、関心を持たれている地域の方は多い。

●目的・趣旨

初回ということもあり、インプット（伝達する情報量）過多にならないように留意した。まずは 1 回目の軽めのワークで、スライドや NSD のビジョンを受けての「感想」を共有する。2 回目のワークではテーマを設けて、自由に「意見・アイデア」を出す中で、伊那新校のあり方への「参加意識」を醸成する。

●NSD の考える共学共創のビジョンの共有
●ワークショップによるアイデア創出のプロセス体験
●この集まりの位置付けへの理解（NSD 会議等との関係性）と関わりの動機づけ



↑ まずは、NSD のビジョンや、基本策定プロセスのスライドをみての、「感想・思い」を自由に付箋に書いていただくことからスタートした。

第一回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

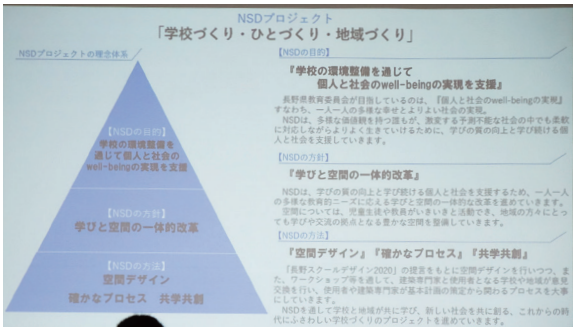
Thinking&Talking about New High-School!

地域

●当日のフロー（前半～インプット）

1. 県教委 田中先生より NSD プロジェクトの説明

・施設の老朽化などこれまでの経緯の説明
・NSD の考える学校像
・「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」理念の説明
　その目的、方針、方法について。



県教委が公開している資料の URL
https://hogehoge～～（あれば）

---

2. インプットと感想の共有

JV須永より基本計画策定の説明

・「地域理解の重要性」の提示
・設計 JV チームの紹介
・配置計画について、学習空間について、断熱環境について、などスライドを用いて説明
・SDGs の概念を挙げ、地域と協働することへの期待。

地域の関わりは「下支え」になる

感想の共有

最初のワークは、短い時間でテーマを決めずに「感想・「思ったこと」をテーブル内でシェア。テーブルファシリ（まとめ役）はそれぞれの感想のポイントを絞り、全体で共有した。

感想のシェア

●海外、他県での学び経験者によると、「壁がない校舎」は参考になるのではないか　●進学校としての役割が新しい学びとどう結びついていくのか検討が必要
●学校の具体的なあり方の軸があやふやに感じる
●型にはまらない自由な学校を期待したい　●ワクワクするような学校にしてほしい　●大人でも自由に出入りでき、学べるような空間を（管理は必要）
●ハード的な心配の声（校舎の階数など）もあった

↑上伊那地域にとって歴史的価値を持つ創造館（旧上伊那図書館）での開催

↑ 県教委田中先生による挨拶と NSD プロジェクトの説明

↑「社会の大きな変化」に対応できる学校空間の整備の必要性

↑ 地域のみなさんからの関心の高さが伺えました

↑ まずは「感想」や「思い」を共有することから

第一回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

地域

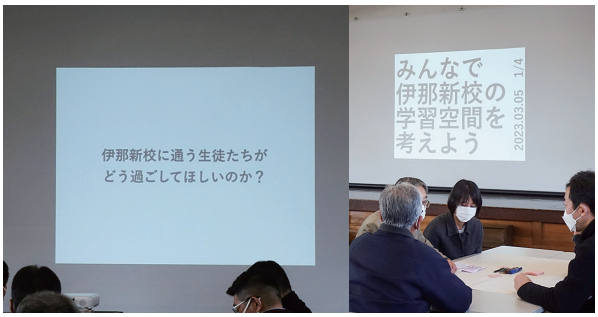
●当日のフロー（後半～ワーク）

瀧内からの補足説明

●基本計画策定のスケジュールの確認

●プロジェクト全体の各会議・組織構造について

この集まりの他に、懇話会、先生ワークショップや、NSD 会議などが同時期に並行して開催されること、この集まりでは「(色・形などを) 決める場所ではない」点なども重ねて説明。



●各種ワークショップ・対話による連動

・先行して 2 月 11 日に開催した「高大生ワークショップ」について JV 九里からの感想。

・2 月 16 日に開催した「先生ワークショップ」での内容について伊那北高校倉澤教頭先生より感想を頂く。

---

3. ワーク

テーマ：伊那新高校の「役割」をイメージしよう

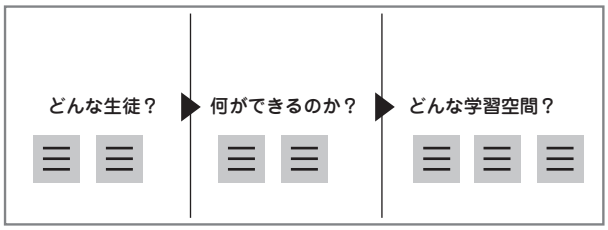
ワークショップに不慣れな方を想定して、全体の流れを説明。下記①～③の流れで付箋にアイデアを書き出していきました。

①「●●のような生徒」の具体的イメージを起点とする

②そのイメージに対して「何ができるのか」

③具体的にはどんな学習空間が描けるか？

※バックキャスト的思考＝「理想論を掲げる」ことも発想の助けになると説明。



（今回のアウトプット＝模造紙）

アイデア出しのルール

・常識や今の状況にとらわれず自由に発想する。

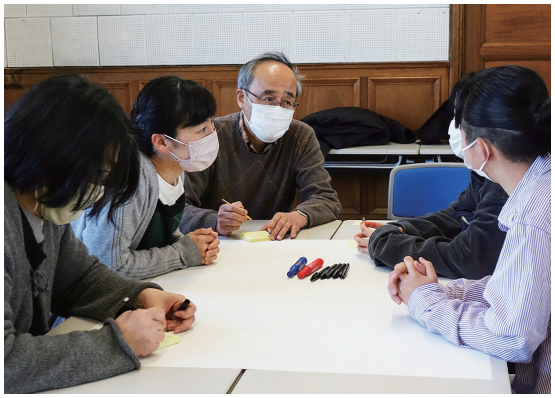
・周りの JV が、テーブルファシリをサポートすることを周知。

・ワーク終了時間を確認して、スタート。

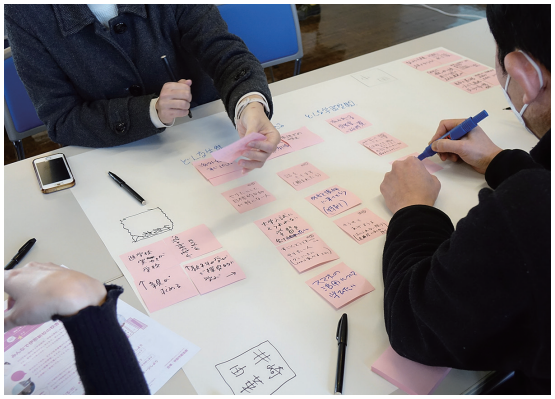
↑「ワークショップ」や「対話」の具体的な説明を行いました

↑ 九里は高大生との距離感・リアリティの大切さを実感したことを報告

↑ これまでの他会議でのワークショップでの感想をいただきました



↑ 異なる年代が混ざって新校の「役割」をイメージ



↑ 多様な「●●な生徒」を書き出すことで、多様な状況が見出されていく

第一回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

地域

●全体共有

各テーブルで話し合われたことをテーブルファシリが整え、ポイントを全体に向けて共有いただきました。

多様な生徒像（の視点からの発想）

●多様な生徒がいる。10 年後どうなっているかわからない中で、出会いの場を用意することが必要。
●地域の中にサテライト機能が欲しい。探究の中での接点や心理的安全性を担保するような。
●多様な生徒がいる中で、例えば「ハリーポッターの学び場（ホグワーツ）」のような空間のあり方
●部活を頑張りたい生徒像から、グラウンドは最大限欲しい、その上で、地下駐車場などはどうか。

何ができるか（の視点からの発想）

●子ども達が目標を持っての進路・進学という観点から、地域を知ること（製造業のオープンファクトリー）、大人も一緒に探求するようなプログラム、そういった大人の関与が重要では。　●精神的に落ち込んだ生徒へのカウンセリング（空間的なハードルを低く）
●人と意見を交換してしたり、議論できる場の整備。一方で一人で集中できる空間も必要　●何を向いているかわからない生徒へのサポート、地域による連携での成功体験の支援。

どんな学習空間か（の視点からの発想）

●遅くまで利用可能な図書館や、（電車で帰らなくても済むように）寮や仮眠スペース　●地域との関わり、コミュニケーションが大テーマ。校内で地域とつながれる場所、商店街は出会いの場所。　●地域と学生（大学生も含めて）が自由に緩やかに関われるような場所。

↑ 各チームから「3 つの視点」でそれぞれ、お話いただけました

↑ 具体的な生徒像からのイメージで、思わぬアイデアに発展するテーブルも

↑ 幅のある年代の方に参加いただけました。

●総評・まとめ（ファシリテーターから）

新校に通う生徒との接点機会を、街のなかに多く持つこと、それを生徒が選べるようになっていくこと、そんなイメージを持てるワークショップだったと感じています。どうしても探究的な学びにスポットがあたってしまいますが、悩みを多く抱える年代で、進路選択をはじめ、さまざまな場面での街の方々との接点機会ができるといいんだろうと思います。

観光案内ではなく「関係案内」という言葉がありますが、どこに行くとその関係案内をしてもらえるのか、そこからどんな出会いを広げていくのか、そんなことが今後まとめていけるといいですね。

今後は、さらに実際の高校生をイメージしていくために、高校生や、お子さんを持つ保護者の方など、ワークショップに参加していただきたいなと思っています。設計 JV も引き続き呼びかけていきますが、参加された皆さんからの呼びかけも、ぜひお願いします。